

# MONTHLY-J

マンスリーJ

## 3・4 月合併号

2010 MARCH・APRIL

日本 GAP 協会会員企業 Interview

# JGAP対応型農場管理システムの開発支援をスタート

2009年9月7日、日本GAP協会は「日本GAP協会 システム開発への協力に関する細則」を定め、「JGAP対応型」の農場管理システムの開発支援をスタートしました。これにより、日本GAP協会が開発に協力し、JGAPとの整合性を確認したシステムには「日本GAP協会 推奨」の文言を使用できるようになりました。

JGAPは、農場管理の仕事について定められた基準です。その仕事の中には、営農計画や実績に関する情報を管理して記録する仕事があります。また、その情報を次の営農計画の策定や農場の責任者による検証に活用するという農場運営・管理の仕組みがJGAPには盛り込まれています。

農業現場における情報の管理には、手書きの台帳やパソコンソフトのエクセルなどを使うことが多いですが、最近は専用の農場管理システムを利用する農場が増えてきています。個人の農家であっても、農業生産法人であっても、JAなどの生産者団体であっても、仕事に情報管理は不可欠です。IT技術を活用して情報管理を改善することで、仕事の効率を格段にあげることができます。規模の大きな法人や団体ほど、多くの情報を管理する必要があり、IT技術の活用はより有効です。

農場管理システムというものは以前からありましたが、最近の流れは「JGAP対応型」です。

業界標準GAPとなりつつあるJGAPを土台に置いたシステムを活用することで、仕事の効率性を高めると同時に、消費者やバイヤーからも評価される「適切な農場管理」が実現できます。

2009年9月7日、日本GAP協会は「日本GAP協会 システム開発への協力に関する細則」を定め、「JGAP対応型」の農場管理システムの開発支援をスタートしました。これにより、日本GAP協会が開発に協力し、JGAPとの整合性を確認したシステムには「日本GAP協会 推奨」の文言を使用できるようになりました。2010年3月10日の時点で、3種類の農場管理システムが「日本GAP協会 推奨」の文言を使用して販売されています。

日本GAP協会の会員企業の中にも、農場管理システムを開発・販売している企業があります。今月の会報では、農場管理システムを特集し、各社の商品を紹介していきたいと思えます。

参考：日本 GAP 協会システム開発への協力に関する細則

[http://jgap.jp/Kiyaku\\_Saisoku/systemdevelopment090907.pdf](http://jgap.jp/Kiyaku_Saisoku/systemdevelopment090907.pdf)